

時代の「峠」に立ち、 次世代に残す道を探す

二度と繰り返させぬ 水俣・福島

日本有機農業研究会 夏のシンポジウム 2016

8月20日 (土) 会場：國學院大學常磐松ホール

【午前の部】 10:00～12:30 (参加費 1,100 円)

木村迪夫ドキュメンタリー映画 『無音の叫び声』 上映 & 監督 原村政樹さん

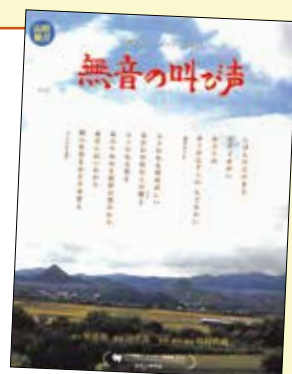
【午後の部】 13:30～17:00 (参加費 1,300 円 / 25 歳以下 500 円)

講演1 「水俣病の民衆史」 岡本達明さん

(元チッソ第一組合委員長 / 民衆史研究者)

講演2 「原発と現代技術」 井野博満さん

(柏崎刈羽原発の閉鎖を訴える科学者・技術者の会代表 / 東大名誉教授)



原爆投下で幕を閉じた第二次世界大戦。あれから 70 余年。今、再び戦争の足音が聞こえてくる。水俣病公式確認から 60 年。東日本大震災に伴う東電福島第一原発事故から 5 年。

戦後高度成長による暮らしの変化と公害、農村の変貌、そして農薬・化学肥料による食と環境汚染の中から「土からの健康・生産者と消費者の提携・世直し」をめざした有機農業運動の実践を重ねて 45 年。

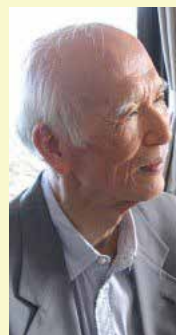
今、わたしたちが果たさねばならないことは何か。

先祖より受け継いだのちの基盤である森・里・海を市民の支え合いで次世代に受け渡さなければならない時である。

戦後 70 年を総括し、時代の「峠」(真壁仁)を画した新たな社会の構築をめざして、今年のシンポジウムは戦後の3つの課題～戦争と農村・農業、公害の原点水俣病、そして原発を取り上げ、地に足をつけて民衆と共に「時代」を生き抜いてきた三者に語っていただきます。



木村迪夫さん(映画)



岡本達明さん



井野博満さん



JR 渋谷駅下車、徒歩 15 分

バス 54 番 03 日赤医療センター行き國學院大前下車

□ (懇親会) 17:30～19:30 若木が丘カフェにて (3,500 円) 申込必須 8 月 5 日まで。

■ 申込・問合せ先 日本有機農業研究会事務局 当日参加もできます。

電話：03-3818-3078 Fax：03-3818-3417 E-mail info@joaa.net 〒113-0033 東京都文京区本郷3-17-12 プレシラス本郷501

主催 NPO 法人 日本有機農業研究会

協力 東京・水俣病を告発する会、渋谷・環境と文化の会、原子力資料情報室

【午前の部】 10:00~12:30 戦争・戦後高度経済成長の矛盾、農村と都市

東北の小さなムラのくらしから 戦後の歩み、戦争と平和、戦後日本社会を見つめ直すドキュメンタリー

大地を慈しみ、平和を希求する農民詩人木村迪夫からの未来へのメッセージ

無音の叫び声

木村迪夫ドキュメンタリー映画 『無音の叫び声』 上映 & 監督 原村政樹さんのお話し



「祖母のうた」

にほんのひのまる
なだてあがい
かえらぬ
おらがむすこのちであかい

「コメのなる壱」

コメのなる葉は真しい
おおわが田むらの種よ
コメのなる葉よ
ぬめりぬめる泥神の深みから
必死に這いあがり
朝の世界をめざす勇姿よ

日本の農民たちが抱え込んできた苦悩を綴ってきた男がいる。詩人であり、行動する人であり、なにより農民として一途に生きてきた人。木村迪夫、八十歳。

戦後山形県上山市牧野に小作人の長男として生まれ、太平洋戦争で父を亡くし、戦後農政に翻弄されながらも、野良で汗を流しながら、家族を守り、地域のくらしを見つめ、農民の「声にならない声」を詩に紡ぎ続けた男。

その詩は、くらしに根ざした野の叫びであり、「地下水」のごとく湧き出す民衆の声。

このドキュメンタリーは、その詩人の歩みと今、その家族・地域のくらしを東北の小さな村を舞台に追いながら、命を育む農業の大切さ、平和を希求する民衆の声、地域に根ざした新たなくらしの深まりを願う確実な流れをとらえています。

『いのち耕す人々』などの原村政樹監督が木村迪夫さんの詩や人生を描くドキュメンタリー。語り 室井滋、朗読 田中泯。

『無音の叫び声』制作委員会会長 日本有機農業研究会幹事 星寛治さんより

「危機の時代に放つ魂の叫び」

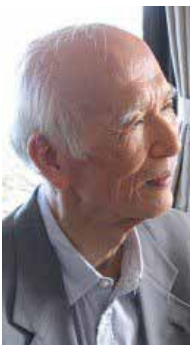
東北の村の一隅から、静かな地鳴りのような声が上がった。農民詩人木村迪夫さんの生きざまを描く記録映画『無音の叫び声』が放つ鳴動の跗（こだま）である。

牧野村の美しい風土に根ざす農業と、戦争によって奪われた家族の日常と平安・悲運の歴史を背負いつつ、ひたむきに生き抜く主人公と村人たち。

変転する農政に翻弄されながらも、人々はイエとムラの存続をめざして生きてきた。苦難を乗り越える自立と互助の習いこそ、村共同体の底力である。同時代を生きるよこびと希望があると映像は語りかけてくる。

一人でも多くみなさまに観ていただきたい映画です。

【午後の部】 13:30~17:00 公害の原点 水俣病から、最大の公害・原発事故に至る現在の分水嶺



「水俣病の民衆史」岡本達明さん (元チッソ第一組合委員長 / 民衆史研究家)

水俣病を背負い、加害企業チッソの労働者としてその内部から水俣病患者と共に闘い続け、今は社会の底辺を知るためのライフワーク「民衆にとっての日本の近現代史」に取り組んでいる岡本さんが今、伝えたいことは・・・。



チッソ第一組合委員長岡本さんは水俣工場前で「きつと仇をとります」と患者の遺影に語りかけた。チッソ第一組合労働者による全国初の「公害スト」にて (1970年)

「原発と現代技術」井野博満さん

(柏崎刈羽原発の閉鎖を訴える科学者・技術者の会代表 / 東大名誉教授)



「川内原発の審査書に異議あり」原子力規制を監視する市民の会の専門家として審査に異議申立をする井野博満さん (2014年)

「有史以来最大の公害事件」と判決された福島第一原発事故。

材料科学の専門家として「原発は技術ではない」と告発し続けてきた井野さん。有機農業運動にも参加。巨大化した「現代技術」の本質と市民のあり方を聞く。

